

被災者に寄り添って

西山 是文

東日本大震災発生以来、全国よりご支援をいただきまして改めて感謝申し上げます。

その年、六月より全国各地で講演させていただき被災地の現状をお伝えする機会をいただきましたことにも感謝申し上げます。本日、お話しさせていただきます内容はその講演と重複するところもありますこと、予めご承知いただきたいと思えます。

東日本大震災に対する支援の内容は様々であり、発生直後は火葬場、遺体安置所で読経回向していただきました。また、全国各地より送られてきた支援物資を避難所に搬送することもしていただきました。そして、瓦礫撤去作業に家屋整理の手伝いなど、被災した方々が望んでいる支援をしていただきました。支援する内容によっては僧侶でなくてもできる内容ではないか、とご指摘を受けましたが、支援する側の望むことではなく、支援される側の望むことを第一に考え、活動していただきました。支援される側が望む支援、言い換えれば、被災した方々が望む支援でありませんが、その内容は月日が経過していくと変わっていきます。先にあげました支援内容に加えて、避難所での傾聴活動、そして仮設住宅に併設された集会所での傾聴活動、そして仮設住宅を一軒一軒挨拶して廻る訪問活動など、心のケアの支援活動が重要となっていきます。茶話会をしながら被災者ひとりひとりの抱えている悩み、心の問題を傾聴するのですがそれは宗教者であるからこそ、打ち明けてくれることもありました。また、仮設住宅に住む方々に声をかけて廻る活動はひきこもり、閉じこもりになってしまう被災者の方々を出さないという目的で始められたのですが、残

念ながらひきこもり、閉じこもってしまう方々が多いのも事実でした。ある御宅に訪問した時は私が僧侶であることを知ると亡くなった家族のためにお経をあげてくれないかと頼まれ、ご回向させていただいたこともあり。また、ある方からは当時、高校生であった息子さんについて相談されました。地震が起こった時、その青年は津波から避難するため、祖母の手をひいて高台に移動していました。しかし、津波がやってきて一緒に逃げていた祖母の手を離してしまったというのです。その青年がそれ以来、元気がなく外にもあまり出ることがなくなったという母親からの心配している相談でありました。祖母の手を離してしまったのではなく、手が離れてしまったのだと思いますが、その彼のことを思うと切なさを感じます。僧侶として何を答えればよいか迷いましたが、まず、その彼に出来ること、しなければならぬことをその母親に話しました。まだ、祖母の供養をしていないということでしたので、まずは菩提寺に行き、供養をなささい。それを続けることによって心の整理がつくのではないかと、残されたものとしてすべきは祖母への供養なのだ伝えるように言いました。後日、その母親とお会いした時、菩提寺の住職に会いに行き、供養してもらい少しは落ち着いてきたとの報告がありました。また、熊本地震が起きた後、現地に赴き傾聴活動もさせていただきましたが、宗教者であるからこそ心を開いて話してくださる方々もいました。被災者に寄り添う気持ちで、宗教者であるからこそできることがあります。今後も会場の皆様にも被災者が望む支援を継続していただきますようお願い申し上げます。